

福岡市市政記者各位

令和7年8月8日
環境局脱炭素事業推進課

対象車両を拡大！ 動物園などの作業車両でバイオ燃料を活用した実証を実施します

福岡市は脱炭素社会の実現に向け「**2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ**」のチャレンジを掲げ、様々な取り組みを進めています。

市内のCO2排出量のうち約27%（R4年度）を占める自動車部門においては、他の部門（家庭、業務）と比較して排出削減が進んでおらず、特にトラックなどの貨物車や特殊車両によるCO2排出削減が課題となっていることから、福岡市では昨年度より貨物車等における「バイオ燃料活用実証事業」に取り組んでいます。

昨年度の実証では約20%のCO2排出削減効果が確認できたことから、今年度は**対象車両を貨物車以外にも拡大**するとともに、**より大きな削減効果が期待されるバイオ燃料（51%混合バイオ燃料）を用いた実証**にも取り組みます。

実証開始にあたり、**福岡市動物園の作業車両（トラッククレーン：主に資材の積み下ろしや荷役作業に使用）による実証事業の現場見学会**を開催いたしますので、取材についてご協力よろしくお願いします。

1 実証事業について

（1）概要

以下の車両等でバイオ燃料を使用し、CO2排出削減効果やエンジンへの影響の有無等を検証



トラッククレーン（小型）
（福岡市動物園）



ドラグショベル
（福岡市西部埋立場）



トラクター
（かなたけの里公園）



トラッククレーン（大型）
（大野コンクリート株）



マイクロバス（小型）
（福岡和仁会病院）



マイクロバス（大型）
（さつき幼稚園）

（2）実証期間

令和7年8月22日（金）～ 令和8年2月頃まで ※供給するバイオ燃料がなくなり次第終了

（3）使用するバイオ燃料

サステオ（使用量：8,400L）

※**福岡市動物園所有のトラッククレーン**は、バイオ燃料の濃度が高く**より大きな削減効果が期待される51%混合バイオ燃料**を率先して使用。その他の車両では、20%混合バイオ燃料を使用。

2 現場見学会について

- 日時 令和7年8月22日（金）11時～12時（受付：10時45分～） ※荒天時は中止の可能性あり
- 場所 福岡市動物園（集合場所：植物園入口前） ※別紙参照
- 内容

- ・事業概要説明 【説明者：福岡市】
- ・実証事業に使用するバイオ燃料の説明 【説明者：カメイ株式会社（実証事業の委託事業者）】
- ・トラッククレーンの説明（役割等の紹介） 【説明者：福岡市】
- ・**給油の様子やトラッククレーンの作業の様子（ゾウのエサの積み込み・運搬・積み下ろし）の見学・撮影**
- ・（別場所に移動して）ゾウへのエサやりの様子の見学・撮影

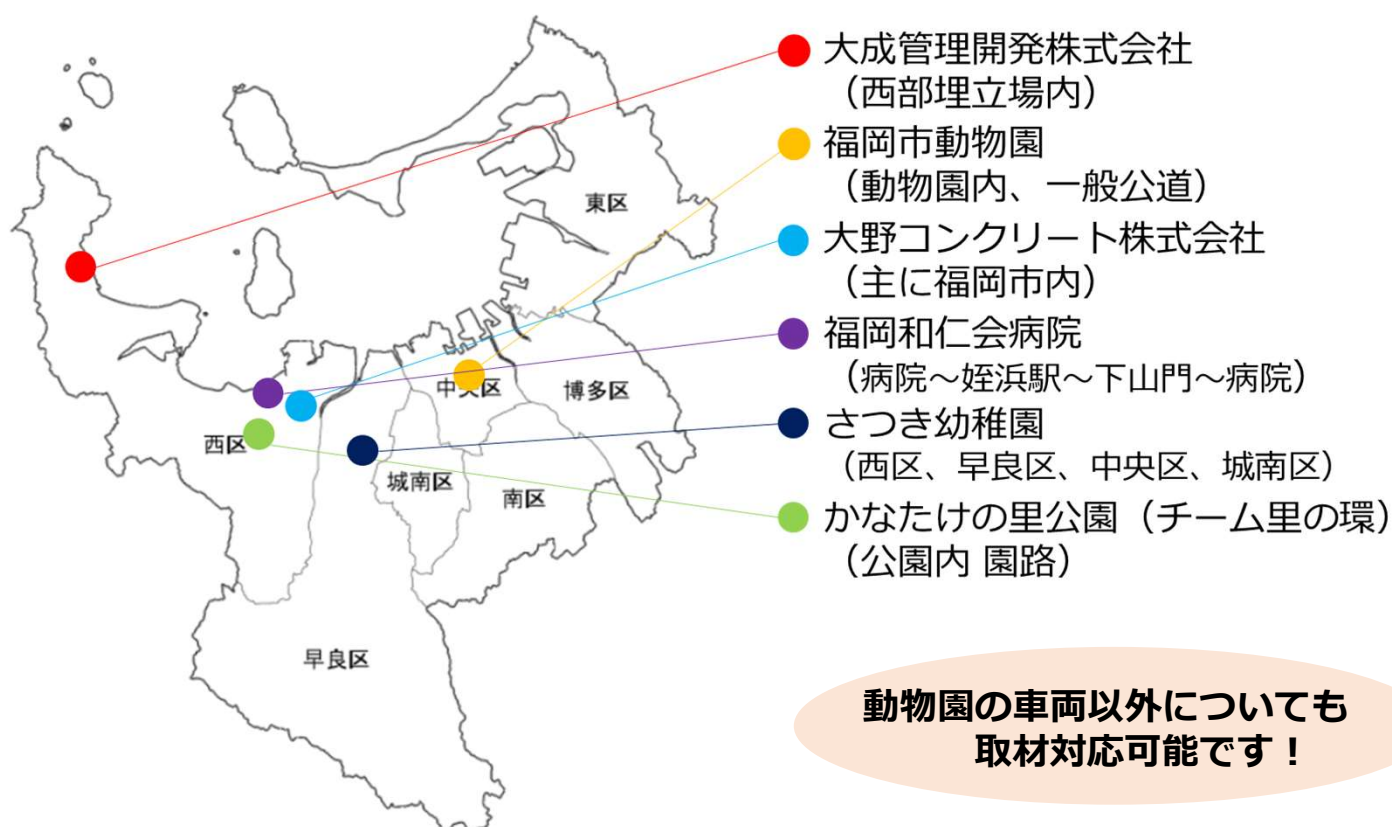
注）ゾウとトラッククレーンを一緒に撮影することはできません

※注意事項

中止時の連絡のため、取材を希望される場合は、**8月21日（木）までに**問い合わせ先へご連絡をお願いします。

【参考】

各車両の走行エリア



動物園の車両以外についても
取材対応可能です！



バイオ燃料活用実証中は、
車両にこのステッカーを貼って走行します！

今回使用するバイオ燃料について

サステオ

- カメイ株式会社が株式会社ユーグレナから調達したバイオ燃料（HVO）と軽油を混合
- バイオ燃料の混合割合
動物園トラッククレーン：51%、200L
上記以外の車両：20%、8,200L
- 特徴：**・国内規格上「軽油」**（JIS規格/品確法/地方税法）に合致
・現行の車両を変更すること無く使用可能



【問い合わせ先】

環境局 脱炭素事業推進課 担当：大藺（おおぞの）
電話：092-711-4203（内線2415）
FAX：092-733-5592



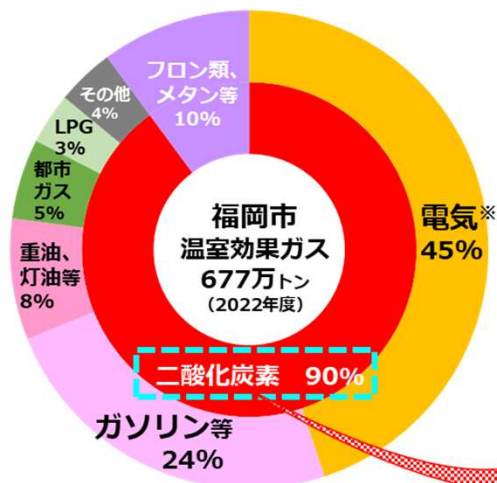


(注意事項)

- ・集合場所の植物園入口 料金所前で受付後、植物園の立体駐車場に駐車をお願いします（写真参照）。
- ・駐車後、徒歩で動植物園管理事務所への移動をご案内します。
- ・ゾウの近くでトラッククレーンを操作（エサの積み下ろし）している様子の撮影はできませんが、別の場所でゾウにエサを与えている様子はご撮影いただけます。

福岡市内の温室効果ガス排出量

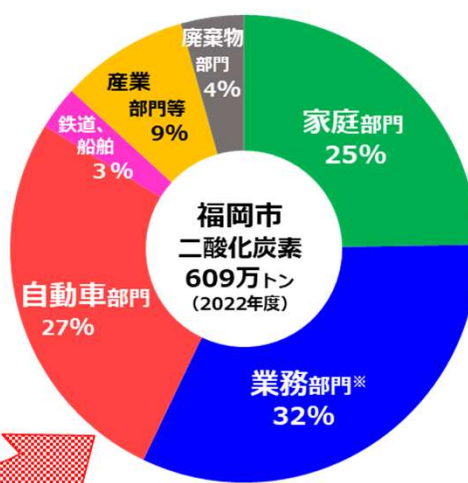
温室効果ガス総排出量（推計）内訳
（エネルギー種別）



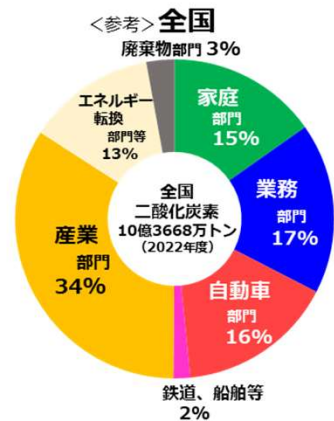
※国のマニュアルに基づき、電気は電気事業者による発電に伴い排出された二酸化炭素が分配されており、需要側の排出として算定している

※ 四捨五入の関係のため、割合の合計が100%を超える

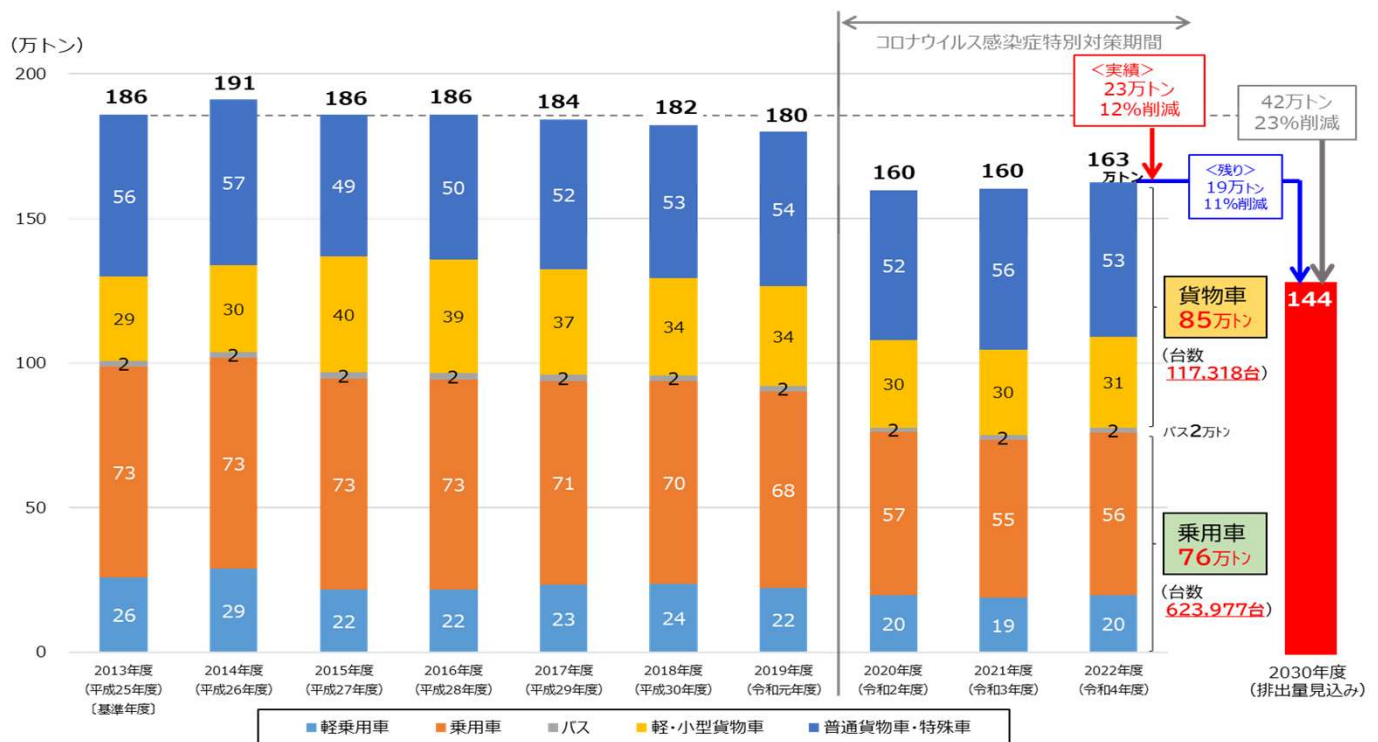
二酸化炭素総排出量（推計）内訳
（部門）



※業務部門：商業、サービス、事業所等



福岡市内の自動車部門の温室効果ガス排出量の推移



※ 四捨五入の関係のため、消費量の内訳と総量が一致しない場合がある。

※ 福岡市統計書（自動車保有台数）と環境省「運輸部門（自動車）CO2排出量推計データ」から推計

バイオ燃料活用実証事業の対象車両の拡大

令和6年度対象車両

- ・トレーラーヘッド
- ・し尿運搬車
- ・灰運搬車
- ・給食配送車
- ・チルド車
- ・タンクローリー

バイオ燃料によるCO2
排出削減効果を確認

内燃機関に影響が
ないことを確認

令和7年度対象車両

- ・トラッククレーン
- ・ドラグショベル
- ・トラクター
- ・マイクロバス

様々な車種・用途の
車両でさらに実証

令和6年度 福岡市バイオ燃料活用実証事業 実施結果について

トラックやトレーラーなどの貨物車からのCO2排出削減が課題となっていることから、令和6年度に環境局と港湾空港局が連携し、脱炭素に向けたチャレンジとしてバイオ燃料を活用した実証事業を実施しました。

〔バイオ燃料〕
廃食用油などのバイオマス
(生物資源)を原料とする
燃料のこと



1 実証事業について

(1) 実証内容

以下の車両でバイオ燃料を使用し、CO2排出削減効果、エンジンへの影響の有無等を検証。



トレーラーヘッド
博多港ふ頭株式会社



し尿運搬車
公益財団法人ふくおか環境財団



灰運搬車
大成管理開発株式会社



給食配送車
九州商運株式会社



チルド車
広徳輸送株式会社



タンクローリー
松藤商事株式会社

※敬称略

(2) 実証期間

：令和6年7月～令和7年3月
供給するバイオ燃料がなくなり次第、順次終了

(3) 使用したバイオ燃料

：B20 (HVO)〔商品名：サステオ〕



(4) 使用したバイオ燃料数量

：20,000L
〔トレーラーヘッド 10,000L
その他車両 各2,000L〕

参考 走行エリア



- 博多港ふ頭株式会社 → 東区アイランドシティ
コンテナターミナル内
- 大成管理開発株式会社 → 東区
- 広徳輸送株式会社 → 博多区～東区
- 松藤商事株式会社 → 県内全域
- 公益財団法人ふくおか環境財団 → 中央区
- 九州商運株式会社 → 城南区～早良区～西区

(5) 実施結果

通常の軽油とバイオ燃料との燃費比較は、以下の表のとおりです。

通常の軽油を使用した場合とバイオ燃料を使用した場合の比較は、同一の経路や積荷、気象条件ではないことから厳密には行えないものの、二酸化炭素排出削減効果は通常の軽油と比較して概ね20%であったことが推測されました。

また、実証試験走行中の内燃機関（エンジン）への影響や始動性や走行安定性などについての違和感の報告はありませんでした。

単位：km/L

企業名	車両	通常 燃費	バイオ燃料 燃費	差異
博多港ふ頭株式会社	トレーラーヘッド	1.5	1.4	-0.1
大成管理開発株式会社	灰運搬車	3.0	3.1	0.1
ふくおか環境財団	し尿収集車	3.9	3.4	-0.5
九州商運株式会社（車両①）	給食配送車	5.4	5.5	0.1
九州商運株式会社（車両①）		5.4	5.5	0.1
広徳輸送株式会社	チルド車	3.0	2.8	-0.2
松藤商事株式会社	タンクローリー	4.8	4.4	-0.4

2 実証事業のPR等について

(1) 広報啓発ステッカー

市民や事業者へ本事業をPRするとともに、バイオ燃料に関心をもっていただくきっかけづくりの一環として、実証事業を行う車両にPR用ステッカーを貼付し試験走行を実施しました。



(2) バイオ燃料活用についての事業者への働きかけ

本実証事業に参加していない運送事業者等に対して、本事業についてのPRやバイオ燃料の活用について働きかけを行うとともに、今後の活用についての意向をヒアリングしました。

【ヒアリングにおける所感】

- ・多くの企業がバイオ燃料の使用について興味を持っているものの、価格面や供給面（給油拠点の整備）に課題感がある様子。
- ・バイオ燃料（HVO）の品質・性能面について企業側の認知が不足していると思われるため、バイオ燃料の早期普及のためにも正しい情報発信が必要。

○本実証事業の委託事業者：増田石油株式会社（福岡市中央区）、カメイ株式会社（仙台市青葉区）

【問い合わせ先】

（事業全般・トレーラーヘッド以外の車両について）
環境局 脱炭素事業推進課
電話：092-711-4204
FAX：092-733-5592

（トレーラーヘッドについて）
港湾空港局 計画課
電話：092-282-7082
FAX：092-282-7771

